

## 7 臨床実習における針刺し・切創事故発生状況とその対策

○渡辺美幸, 平澤明美, 和田麻衣子

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 針刺し・切創事故, 医療事故防止対策, 臨床実習

### はじめに

歯科医療の現場で, 鋭利な器具を用い, 歯科医師との緻密な共同動作が要求される歯科衛生士業務は, 日常的にアクシデントやインシデントが発生しやすい状況にあると思われる。近年, 臨床実習先においてもさまざまな医療事故防止対策がとられ, 安全で良質な医療を提供するためのシステムづくりがなされているが, 本学実習生の針刺し・切創事故(以下, 事故とする)の報告は絶えない。そこで, 実習生が起こした事故を分析し, 今後の医療事故防止対策や学生教育について検討したので報告する。

### 対象および方法

対象は, 平成15年1月6日～平成18年12月28日までの4年間に, 臨床実習先において本学実習生421名中50名が起こした事故58症例とした。

方法は, 事故発生直後に実習先および実習生本人から報告を受けた際, 歯科衛生士教員が記載する記録表をもとに集計・分析した。

### 結果および考察

事故経験者数は, 4年間で合計50名, 平均11.9%の者が事故を経験しており, さらに事故経験者のうち14%の者が複数回の事故を経験していることがわかった。また, 月別事故発生件数は, 9月が11件と最も多く, 次いで3月が10件で, 長期休暇中およびその前後に多く発生していた。曜日別では, 水曜日が21件36.2%と最も多く, 特に日本歯科大学新潟病院での事故が多かった(図1)。これは, 実習生の登校日の関係から, 実習内容が過密になり, 多忙であることが伺え, 疲労の蓄

積や集中力の減退が事故発生に関係したのではないかと考えられる。

また, いつ事故を起こしたかの間に対し, 最も多かったのは, 診療の後片付け時36.2%, 次いで器具の消毒時34.5%で, 歯科診療補助中よりも後片付けや消毒時の事故発生率が高いことが明らかとなった。今後はこれらの項目についても具体的な対策を充実させる必要があると思われる。

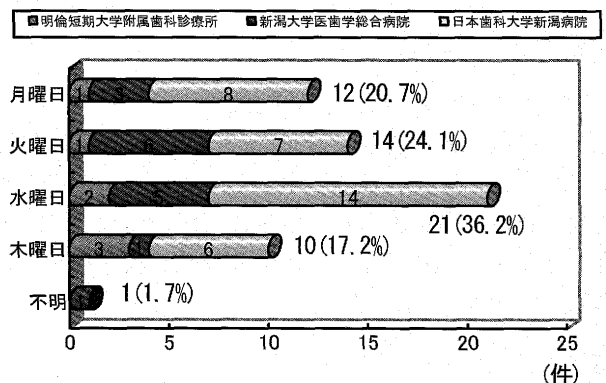


図1 曜日別事故発生件数 (n=58)

### まとめ

以上より, 年間平均11.9%の実習生が事故を経験し, 水曜日および長期休暇前後に多発していた。また, 歯科診療補助中よりも後片付けや消毒時の事故発生率が高いことがわかった。今後は医療事故防止対策の知識だけでなく, 臨床を想定した実習を充実させ, 学生の意識が高まる教育方法を取り入れていくと同時に実習先との連携を深め, 実習環境の整備に努めていきたい。

### 文 献

- 1) 大藪利恵他, 臨床実習における学生の認識と行動, 帝京平成短期大学紀要, 14, 23-27, 2004